

チリ、パナマ雑感

佐藤 祐造

この程（8月7日（月）～8月20日（日）迄）、国際協力事業団（Japan International Cooperation Agency, JICA）による「生活習慣病予防対策研修コース・ニーズ調査団」の団長として、チリー、パナマに行く機会があった。チリーとパナマにおける生活習慣病対策を中心とする医学、医療、健康教育・スポーツ教育等に関して簡単に紹介する。

1. チリー

チリーでは、1990年代から経済成長率が平均7%（4.2～11.0%）とラテンアメリカではトップ、世界でも十指に入る高度成長をとげた。それに伴い高い頻度で認められた栄養失調と感染症が急激に減少し、総死亡率も減少した。一方、食習慣は変化し、牛肉、豚肉、ソーセージ等の摂取が急激に増加し（魚、卵、パン、ジャガイモなどは変化していない）“westernized”された。また、アルコールの摂取量も増加し、運動不足の状態が急激に進展した。それに伴い、我国で「生活習慣病」と呼ばれているライフスタイル関連の糖尿病、高血圧、肥満（ことに低所得者に多いという「先進国型」となっている）、動脈硬化など慢性疾患が急増し、心臓血管死が死因の一位を占めるに至った。

チリー政府はこのような疾病の予防、治療のためCARMEN Projectsを策定し、実行に移している。すなわち、地域住民の身長、体重、血圧、血糖、血清コレステロール、喫煙等につき、定期的に指導、経過観察を行い、疾病が発見されれば、1型糖尿病ではインスリン、2型では経口血糖降下薬など薬剤投与も行っている。この計画の特色は、①特定の疾患ではなく、多くの疾病を総合的に取り扱っている。②行政が縦割りではなく、厚生省、

文部省、国防省スポーツクリエーション総局（国立スポーツ研究所）をはじめ、大学、公立学校、民間施設など多くの機関が相互に協力して事業を進めている事である。しかし、計画は進行しはじめたが、対象人数も限られている、評価が行われていない、などの問題点も残されているが、今後の発展が期待される。

いずれにしても、チリーは①国の姿勢として米国だけでなく、アジアとの関係も重視している。②国土は日本の2倍の広さがあるが、砂漠や寒帯地域も多く、利用できる国土が限られている。③銅、硝石の他資源が限定されており、付加価値のついた製品を生産する必要がある。等々我国と共通する点も少なくない。

私はこれまで「チリ硝石」、「チリワイン」以外ほとんど知識がなかったが、チリー国民が国の発展に懸命に努力している姿を拝見し、感服した。

2. パナマ

パナマでも、経済状態の改善に伴い車が急増しており、ストレスと運動不足、食物の過剰摂取から少なくとも都市在住者では、「生活習慣病」が増加しているという。

一方、都市と農村との地域間較差は大きい。後者では栄養失調（malnutritionではなく、dysnutrition）から乳幼児の死亡率が高い。また、高齢者では、肺結核をはじめとする感染症対策が大きな問題となっている。パナマ国ではポカス・デル・トーロ厚生病院というコスタリカ国境に近い辺境の病院を見学したが、検査設備もほとんどなく、インスリンをはじめとする薬剤も不足している現状を目前にして種々考えさせられたことである。

戦後50年以上を経過した今日、幸いにして世界のトップレベルの生活を享受することができることとなった私共は、今後種々のレベルで国際貢献を行わなければならないと深く感じさせられたことである。

（保健科学部）